

平成31年度/令和元年度 事業報告書

自 平成31年4月1日/令和元年5月1日
至 令和2年(2020年)3月31日

I. 概要

主力のプリズム式双眼鏡の日本からの輸出(出所:2019年財務省輸出入統計)は、数量で約10万個、金額で24億円(前年29億円、平均単価は約2.5万円)、対前年比数量は同水準であったが金額では15%減と米国市場の低迷が響いた。仕向け地別輸出金額上位5ヶ国の高額順及び平均単価・シェア(カッコ内)は、①米国10億円(3.4万円、41%)、②ドイツ4.5億円(2万円、19%)、③オランダ2.6億円(3.9万円、11%)、④カナダ1.8億円(4.9万円、7%)、⑤オーストラリア0.6億円(3.2万円、3%)、上位5か国で8割を占めている。

同じくプリズム式双眼鏡の自主統計(出所:2019年生産販売統計、産地直送含む)では、国内販売は前年比数量で5%増、金額も6%増。輸出は数量で13%増、金額で12%増と全地域とも好調であった。金額ベースでの国内対輸出比率は18%対82%(前年20%:80%)で昨年とほぼ同比率。

なお、国内を含む売上比率は、①北米50%、②欧州25%、③国内18%、④その他7%とほぼ変わらず。

出展したイベントは、①経済産業省こどもデー、②ジャパンボードフェスティバル。

①経済産業省こどもデーでは、経産省産業機械課のご協力、ご指導のもと、経産省地下講堂壇上にて30m先の天体画像を配置し、天体望遠鏡、スポッティングスコープ、単眼鏡(ゴルフ距離計含む)、双眼鏡(防振含む)による観望を楽しんでいただいた。天体望遠鏡のモックアップ、カットモデル、スケルトンモデルは好評であった。

②ジャパンボードフェスティバルでは、CP+での実践を兼ねた双眼鏡使い方教室(仮称)は好評であった。

③CP+2020は会員社の協力を得て出展にこぎつけたが、新型コロナウイルス感染防止により開催中止となった。

なお、計画したコンテンツはセミナー、スタンプラリー、双眼鏡使い方教室、オリンピック記念モデルの展示。また、ホームページでは分かりやすい新規特設サイト(バナーリンク)を準備した。中止案内は即時更新。

平成31年度/令和元年度の当工業会各事業の具体的内容について、以下の通り報告する。

II. 事業報告

1. 会議

1.1 第43回通常総会:令和元年5月24日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催し議案は全て承認された。

【議案】

- 第1号議案 平成30年度事業報告書及び収支決算書承認の件
- 第2号議案 令和元年度事業計画書承認の件
- 第3号議案 令和元年度会費の額及びその納入方法承認の件
- 第4号議案 令和元年度度収支予算書承認の件

総会懇親会は令和元年度5月24日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催、出席者は52名。

1.2 賀詞交歓会は令和2年1月17日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催、出席者は70名。

1.3 理事会:新公益法人改革の法律及び定款にもとづき、継続事業報告を実施し進捗を確認。

- ①5月10日(金):第43回通常総会議案審議(平成30年度事業報告&収支決算書)、他。
- ②8月28日(水):継続事業実施進捗状況報告、経産省こどもデー出展報告、正会員入会審議他。
- ③11月27日(水):継続事業実施進捗状況報告、イベント出展報告(JBF)、他。
- ④令和2年1月17日(金):継続事業1~6の実施状況報告、賛助会員入会審議、他。
- ⑤令和2年3月27日(金):第44回総会議案審議(新年度事業計画&収支予算書)、他。

1.4 総務広報委員会:令和2年2月18日 令和2年度事業計画&収支予算書の検討。

1.5 技術委員会:技術研修会(令和元年7月4日)の実施とフォロー。

1.6 業界活性化委員会:平成31年4月8日、10月9日 CP+2020工業会出展内容の検討と具体化。

2. 会員入会情報

2.1 令和2年3月31日付現在の会員数:正会員数30社(1社増)、賛助会員数9社(1社増)

- ・正会員入会 : 株式会社東洋ケミカル 令和元年(2019年)8月28日付承認
- ・賛助会員入会: 手塚光学株式会社 令和2年(2020年)1月17日付承認

3. 「双眼鏡・望遠鏡歴史展示室関連」

3.1 オリンパス様より100年史の寄贈を賜りました。

3.2 望友会_高堀様より双眼鏡と社史の寄贈を賜りました。

- ①カールツァイス社製 双眼鏡Dialyt8x30B、②カールツァイスジャパン100年史

- 3.3 ベルボン様より三脚Sherpa435 IIIの寄贈を賜りました。
- 3.4 昭和オプトニクス様より自社の沿革に関する資料の寄贈を賜りました。
企業ルーツを調査する段階で双眼鏡製造が関係していることが分り関係資料を提供、交流した。
国立科学博物館の中島隆先生を7月4日の技術研修会で紹介。
昭和オプトニクス様:井上秀商店(双眼鏡)～井上光学～昭和光機～現在へと至る。

4. 継続事業報告

4.1 国際標準化規格関連事業 (ISO/TC172/SC4 望遠鏡(Telescopic Systems))

4.1.1 議長:Mr. Franz Erler(オーストリア))(任期2022年末まで)

事務局: DIN, Ms. Sabine Pintaske(ドイツ)(11月からMrs. Clara Engesser に交代)

作業グループ: WG2(Telescopic devices (望遠装置))が活動中。

Pメンバー(10ヶ国): オーストリア、中国、ドイツ、日本、韓国、ナイジェリア、ルーマニア、ロシア、イギリス、アメリカ

Oメンバー(7ヶ国): クロアチア、フランス、ポーランド、サウジアラビア、スロバキア、スペイン、スイス

活動内容と総括

TC172/SC4は、「光学及びフォトニクス関連の分野のうち、望遠鏡の用語、性能特性、試験方法における規格」を制定する技術委員会であり、1992年10月にサンクトペテルブルグで開かれた第1回国際会議でSC4の活動が始まり、これまでに21件の規格が審議・制定・改正されてきた。またSC1から1件の規格が移管されており、合計22件を所掌している。

参加国は2020年4月現在でPメンバー10ヶ国、Oメンバー7カ国である。そのうち、国際会議に継続的に参加し議論しているのは、ドイツ、オーストリア、ルーマニア、アメリカ、日本の5カ国である。

議長、事務局は当初ロシアだったが、現在は議長オーストリア(2022年末まで)、事務局DIN(ドイツ)となっている。

現在、ライフルスコープ、ナイトビジョン関係の用語、特性、試験方法の規格の改正等が提案からDISの各段階で検討されており、今後も議論に参加してゆく。

そのほか、発行済みの規格については、見直しまたは改正が進められており、SC4国内委員会は、投票やコメントはもとより、これらの作業や審議に積極的にに関わり、検討・討議を行なっている。また、必要に応じてこれらのISOをもとにJIS原案を作成し提案している。

4.1.2 SC4国内委員会活動経過(2019.4～2020.3)

(1) 活動概要

- ・ 2019年度中に、SC4国際会議は対面で2回開催され、国内会議は4回開催した。
- ・ ISO投票は7件(CD4件、DIS2件、SR1件)投票し、その他コメント招請等14件に対応した。
- ・ ISO規格では、発行済み22件を所掌し、現在9件(改正8件、新規1件)が作業中である。なお、改正以外の理由で廃止された規格は無い。
- ・ また、ISO14490-5望遠鏡意見方法第5部透過率、14490-6同第6部ベイリンググレア指数について、JSA公募制度に応募し、2020年度中にJIS制定原案を作成する予定である。

(2) 会議

2019年4月10日 [国内委]

- ・ 投票2件(DIS9336-3(〆切2019/04/26)、DIS14490-9(〆切2019/04/29))について審議し、2件ともコメントなし賛成とした。
- ・ 投票結果4件(CD14490-10(〆切2019/03/01)、SR14132-5(〆切2019/03/04)、SR21094(〆切2019/03/04)、SR14490-8(〆切2019/03/04))を確認した。
- ・ 5月20,21日に開催されるSC4及びSC4WG2国際会議の議事次第等について確認した。
- ・ 来年度のJIS原案作成候補について、ISO14490-5,6望遠鏡試験方法第5部透過率、第6部ベイリンググレア指数、ISO14490-3試験方法第3部ライフルスコープ、ISO20711試験環境について検討した。

4.1.4 5月20,21日 [国際委(ウィーン)]

- ・ ASI本部(オーストリア)にてSC4総会及びWG2会議が開催され、事務局を含めて5カ国8名が参加した。日本からは2名参加した。
- ・ SC4総会では、組織体制やスコープ(活動範囲)等について議論された。2019年末が期限の議長は延長の方向でTC172に諮ることとした。・その他、多くの案件の取り扱いを議論、決議した。
- ・ 特にDIS14490-10望遠鏡試験方法第10部カラーパフォーマンスについては日本からのコメントにより、視度望遠鏡の精度測定に関する附属書を作成すること、測定精度に関する要求値は必須(shall)ではなく推奨(should)、となった。

5月24日 [国内委]

- ・ 直前に開催された国際会議での議論、決議等について報告した。

4.1.5 8月30日 [国内委]

- ・アイレリーフ関連WD等へのコメント送付について検討した。
- WD14132-3 ライフルスコープ用語(2019/09/30 〆切)
- WD14135-1,-2 ライフルスコープ特性(2019/09/30 〆切)
- WD14490-3 望遠鏡試験方法第3部 ライフルスコープ(2019/09/30 〆切)
- WD14490-5 望遠鏡試験方法第5部 透過率(2019/09/30 〆切)
- ・秋にWG2をWEB会議として開催される予定だったが、11月のTC172総会に合わせて杭州でSC4WG2が開催されることとなった。そのため、日程と参加者を調整することとした。
- ・次期JIS原案作成について、ISO14490-5,6望遠鏡試験方法第5部透過率、第6部ベイリンググレア指数の2件を併せて準備を進めることとした。

4.1.6 11月11日 [国際委(杭州)]

- ・TC172総会、SC4WG2会議の他、ARVRに関するAHGが開催され、日本から3名が参加した。

11月22日 [国内委]

- ・杭州で開催されたTC172総会、SC4WG2会議、ARVRに関するAHGの参加報告。
- ・SR14490-6 ベイリンググレア指数(〆切2020/03/03)について検討した。
- ・基準波長の規格7944について状況を周知した。

4.1.7 ISO電子投票状況、ISO/TC172/SC4/WG2会議及びTC172/AHG会議の報告は割愛させていただきます。ISO規格の制定、審議状況は別紙をご参照願います。

4.2 ホームページ関連事業

一般向けは平成30年度事業報告・収支報告、及び令和元年度事業計画・収支予算書(6月)、会員名簿・役員変更、財務省統計(3ヶ月毎更新)、イベントカレンダーの更新(1回)、CP+2020特設サイトの設置(バナーリンク)、検査工具機器在庫情報の更新(2回)とコロナ禍における検査業務など適時更新した。また、現在整備中の会員専用ページでは、技術研修会などのビデオ映像などを投入した。

4.3 イベント関連事業

4.3.1 経済産業省こどもデー

経済産業省こどもデー出展 : 令和元年8月7日(水)～8日(木)、会場:霞が関経済産業省本館・別館。
産業機械課のご支援により昨年と同じ、本館地下講堂舞台上に配置した双眼鏡・天体望遠鏡・単眼鏡などを、実際に手に取って観望していただき、拡大像はもとより、鮮明さ、コントラスト、浮き上がり具合などと望友会メンバー3名による懇切丁寧な説明もあって、親子連れのお客様の満足された様子が印象的だった。

4.3.2 野鳥関係 ジャパンバードフェスティバル(JBF2019)

会期:令和元年11月2日(土)～3日(日)、会場:千葉県我孫子市手賀沼親水広場、(公財)山科鳥類研究所、他
主催:ジャパンバードフェスティバル実行委員会(事務局は我孫子市)、出展:工業会関連社
実行委員会:平成30年4月19日総会、6月20日、8月16日、10月4日、11月21日、平成31年2月19日
出展:水の館3階(手賀沼課)に望友会メンバー3名、活性化委員長、事務局にてお客様と交流した。
特に、CP+2020で実施予定の双眼鏡使い方教室について、本番を想定した演習を実施した。

4.4 調査広報事業

4.4.1 公式発表されている財務省関税局輸出入通関統計(双眼鏡、単眼鏡、ライフルスコープ等)をホームページに掲載すると共に会員向けには会報内に掲載。なお、会員企業による自主統計は継続中。

4.4.2 国内外の市場・流通動向:諸統計にて掲載。

4.4.3 各種イベント案内:ホームページに掲載すると共に会員向けには会報(電子メール)にてお知らせした。

4.4.4 事業成果の普及:通常総会にて承認後、ホームページに掲載した。

4.4.5 米国ラスベガスで開催されたshotshow2020を見学。令和2年1月22日～23日(渡航期間は21日～25日)アウトドア展示会(Hunting & Shooting)としては、ドイツのIWAShow(2020年は中止)と並ぶイベント。当業界関連商品は、双眼鏡、スポッティングスコープ、天体望遠鏡、三脚、ライフルスコープ、レンジファインダー、ドットサイト、暗視スコープ等など多岐に亘る商品展示と商談が活発に行われていた。

4.5 関連団体提携事業

4.5.1 軽機械センター運営協議会への参画事業:中国・欧州情報収集

- ・令和2年2月10日、幹事会に出席した。令和2年予算書を審議し承認された。池田課長補佐からコロナ渦の状況、経済産業省の各種施策についてご説明があった。
- ・会員構成:(一社)ビジネス機械・情報システム産業協会、日本機械輸出組合、JETRO、(一社)日本時計協会、(一社)カメラ映像機器工業会、(一社)日本縫製機械工業会、(一社)日本望遠鏡工業会

- 4.5.2 日本光学工業協会への事業運営参加:国際標準化規格、JIS関連、技能検定等々、TC172活動報告の発行
- ・6月6日(木)役員会(事業報告&会計報告、事業計画&収支予算書)に出席した。
 - ・会員構成:日本顕微鏡工業会、日本光学測定機器工業会、日本医用光学機器工業会、(一社)カメラ映像機器工業会、(一社)日本測量機器工業会、(一社)日本写真映像用品工業会、(一社)日本望遠鏡工業会
- 4.5.3 (一社)日本写真映像用品工業会との業務提携:CP+協力、各種イベントにて用品年鑑を配布した。
6月5日元気の出るセミナー&会員交流会に参加した。
- 4.5.4 (一社)天体望遠鏡博物館(四国東さぬき市)との業務提携:3周年記念セミナーに参加した。
- 日程:令和元年4月13日(土)15:30~
場所:四国香川県東さぬき市多和助光東30-1 天体望遠鏡博物館(旧多和小学校体育館)
- 第一部 佐藤勝彦先生(東京大学名誉教授)
「宇宙はどのように始まったのか?」- 物理学と天文観測によって描く創世記 -
第二部 山極壽一先生(京都大学総長)
「人類はどこから来てどこへ行くのか?」- ゴリラから見た人類の進化とAI社会 -
第三部 両先生の対談
- 4.5.5 日本天文協議会(2010年9月9日発足)への参画:
- ・平成28年(2016年)2月18日付で入会。
 - ・令和元年度は星空関係イベントの後援名義について、2件の承認依頼があった。
 - ・5月28日IAU100周年国際シンポジウムに参加した。
- 日本天文協議会(抜粋):世界天文年2009の成果を引き継ぎ、日本の天文研究、普及・アマチュアが一体となって、天文と科学の理解を日本の社会に広げるための合同組織(会長:渡辺潤一 副台長)。
- 会員構成:(公社)日本天文学会、自然科学研究機構 国立天文台、宇宙航空研究開発機構、天文教育普及研究会、日本プラネタリアム協議会、日本公開天文台協会、日本天文愛好者連絡会、星空を守る会、(一社)日本望遠鏡工業会
- 4.5.6 (公財)日本野鳥の会への協力と交流: 2019年9月4日、2020年3月4日
日本野鳥の会では、渡り鳥のサシバ(タカ科)をテーマにした保護事業で、フィリピンミンダナオ島南部のサランガイ地域に於いて、地域住民、高校生や大学生が調査活動をしているが、双眼鏡・望遠鏡不足があり、野鳥の会に集まった双眼鏡・望遠鏡を当会光軸検査機による支援を実施した結果142台がフィリピンへの寄贈につながった。また、一次スクリーニング(光学系のカビ、作動調子等)には望友会メンバーも選別に参加した。
- 4.6 **経営環境関連事業**
- 4.6.1 5月31日、経済産業省青木課長補佐による「日EU説明会」を工業会にておこなった。参加者16名
- 4.6.2 研修会開催事業(技術委員会主催)
- ・7月4日、立教大学において高千穂大学・大島教授による「戦後双眼鏡の歩み」を実施した。
参加者は65名(過去最高)。第1部大島教授による講演。第2部高千穂大学と立教大学の学生達による質疑応答:コメントは当会理事、会員社代表者、関係社担当者。第3部は国立科学博物館の中島先生による歴史双眼鏡に関する追加解説をしていただいた。
- 4.6.3 部会活動事業 1.5 業界活性化委員会にて記述。
5. **検査・測定機器**
- 5.1 **検査依頼:合計33件(前年39件)**
依頼検査・性能検査(5件)、検定・校正(視度望遠鏡23件)、分光透過率測定(5件)、証明書発行5件
- 5.2 **検査器具販売:合計121件(前年129件)**
視度望遠鏡109本(前年92本)、携帯型光軸平行器7個(前年3個)、他5個。
6. **行政府機関等への調査協力**
- 6.1 経済産業省産業機械課:セーフティーネット保証5号、分類番号2751:顕微鏡・望遠鏡
データ内容は主力のプリズム式双眼鏡に関して、自主統計(協力企業)をもとにした生産・販売動向。
調査期間は平成30年~令和元年、1月~3月、4月~6月、7月~9月、10月~12月、年4回
なお、データの回答は顕微鏡工業会と協議のうえ望遠鏡工業会にて回答を継続中。
- 6.2 東京都産業労働局商工部経営支援課:東京都概要調及び業種別動向調査、10月回答済み
動向調査期間:平成30年10月~令和元年9月、概要調:令和元年10月末
・団体情報連絡会への出席:令和元年7月12日
・中小企業支援事業説明会:令和2年3月、コロナ禍の影響で開催中止(書類受理)。